

自主防災組織活動報告 小宮地区防災・安心地域委員会 ～自主防災組織の強化を図る～

1 地域の特徴と問題点

当小宮地域は、あきる野市内の西に位置し、山に囲まれた谷間に6か所の自治会が存在しており、各集落は山または川で隔てられ点在しています。

このため、全地域の大部分が土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)または土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に指定され、豪雨発生時には集落の孤立も想定されることから、当地域全体で連携しての災害対応が極めて困難な状況にあります。

また、青年層の流出により高齢化が進み、各自主防災組織の活動を主体的に担う60歳未満の人口が極めて少なく、防災・安心地域委員会の委員でも、大規模災害発生時には自主防災活動を行う必要があるため、2か所の避難所が開設された場合でも必要人員が確保できないことが懸念されます。

2 29年度の活動方針

当小宮地域は、他と異なる地域性と特徴を有することから、本地域委員会の29年度活動方針は、各自主防災組織の充実・強化を図ることに取り組んで来ました。

また、防災・安心地域委員会本部に補助金の要請を行い、昨年6月に61個のヘッドライトを購入し、各自主防災組織に配布しました。

このことから、各自治会の自主防災組織では消防署及び消防団からの指導を受けて、それぞれが抱える課題の解消に向けての訓練を実施するとともに、配布されたヘッドライトを活用した夜間訓練を行い、その効果を体験致しました。

当地域委員会では、今後も継続した自主防災組織の育成・強化が重要と考えています。



防 災 ひ と 言

《日頃から心がける備えの5か条》

1. 日頃から、近所の人達と、もしもの時に助け合える関係を作っているか？
2. 災害発生時の、一時集合場所、指定緊急避難場所を知っているか？
3. 安否確認旗は、すぐに出せるところに保管しているか？
4. 家具転倒防止対策は実施しているか？
5. 家族と災害発生時の連絡方法は決めているか？



《地震発生時に自分の身を守るポイント》

1. 家内、家外どちらにいても「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所へ避難しましょう。この3つの「ない」場所を日頃から探しておきましょう。
2. 机やテーブル等がない場合は、ダンゴムシの姿勢で身を守りましょう。



《各種の情報を活用して防災知識を身につけましょう》

活用してほしい資料

・ハザードマップ ・そなえ防災 ・東京防災 ・東京暮らし防災



そなえ防災

あきる野市防災・安心地域委員会

平成30年3月30日

(第11号)

発行責任者

防災・安心地域委員会

本部長 倉田克治

「防災・安心地域委員会活動発表会」を開催しました

平成30年2月17日、秋川ふれあいセンターふれあいホールにおいて「防災・安心地域委員会活動発表会」(以下「活動発表会」という)を開催しました。活動発表会は、各地区防災・安心地域委員会の活動を知ること、自分たちの地区の防災活動の参考にできるように、平成27年度より隔年で実施され、今年度は2回目の開催でした。

今回の活動発表会では、あきる野市長、秋川消防署長、あきる野市議会議長、あきる野市消防団長、あきる野市総務部長に来賓として参加していただきました。また、各地区防災・安心地域委員会委員や防災リーダー等100人以上の方が参加しました。

各地区防災・安心地域委員会の活動発表は、15分の持ち時間の中で発表されました。避難所運営訓練や地域と小中学生が連携した取組など各地区の特色ある取組を知ることができ、今後の各地区の防災活動に役立てることが出来ると感じました。



TOPIC 女性視点の防災ブック「東京暮らし防災」を活用しよう

東京都は、女性の防災への参画を促すとともに、都民の一層きめ細やかな災害への備えを促進することを目的として、女性の視点から防災ブック「東京暮らし防災」を作成しました。

「東京暮らし防災」は、日常生活の中で、無理なく取り組める防災対策や、避難所における授乳や防犯対策などの被災生活の様々な課題への対処法を掲載しています。

あきる野市では、市役所本庁舎にある地域防災課や五日市出張所、図書館等に設置しておりますので、ぜひ冊子を手にとっていただき、防災活動の一助にさせていただきたいと思っております。



「東京都防災アプリ」も併せて活用しよう

東京都は、都民の一層の災害への備えを促進することを目的として、「東京都防災アプリ」を作成しました。

「あそぶ」「まなぶ」「つかう」をコンセプトに、楽しみながら防災の基礎知識を得られたり、災害時に役立つコンテンツを搭載しています。

いつも・いざというときにも役に立つ、「東京都防災アプリ」をぜひダウンロードしましょう。

※スマートフォン、タブレットで利用可能です。

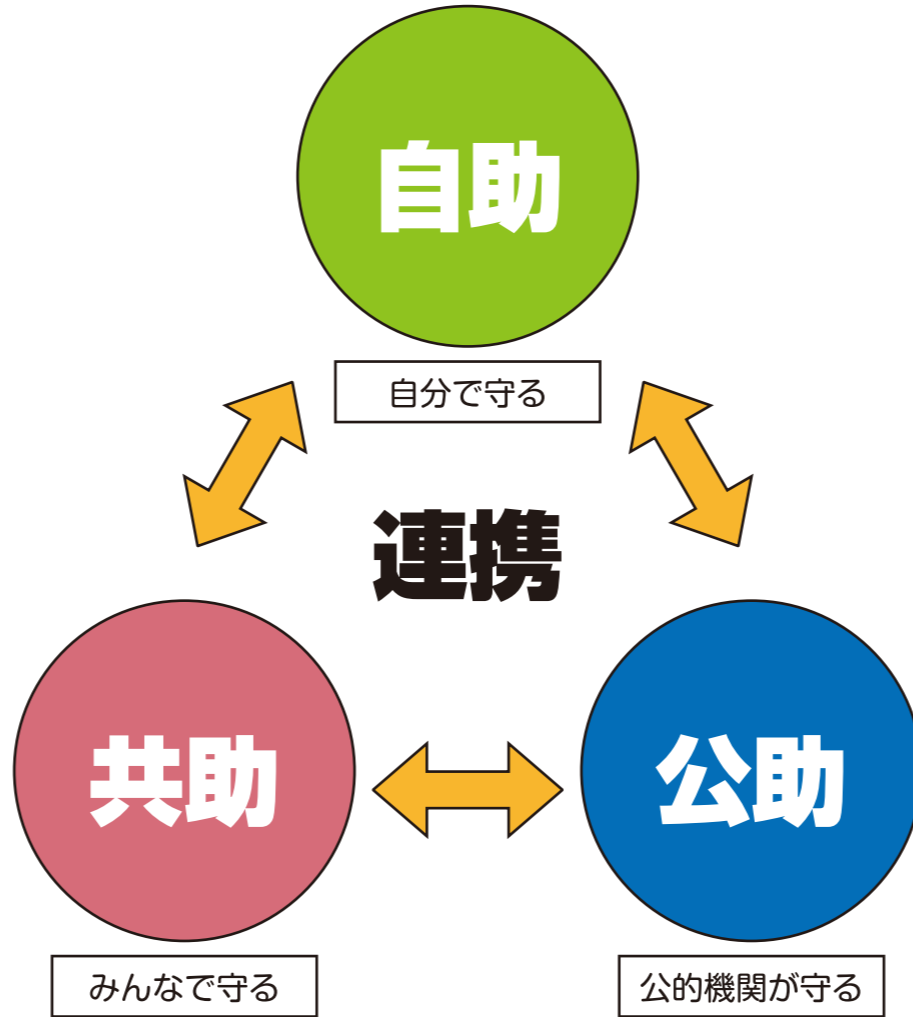


自助・共助・公助について ~災害発生前編~

災害へのそなえには、「自助」「共助」「公助」の3つがありますが、その割合は、**自助7割、共助2割、公助1割**といわれています。
 「公助」には限界があり、自分の力で自分の身を災害から守る「自助」、近隣や地域の人々が協力する「共助」が重要です。
 今回は、災害発生前における災害へのそなえの取組方法について「自助」「共助」でできることをご紹介します。

自助

- 家族で防災について話し合しましょう。
 - ・災害時の家族の集合場所を確認しましょう。万一のことを考え、集合場所は複数決めましょう。家族を見つけやすいように、具体的な場所を決めましょう。
 - ・災害時の家族の連絡方法を確認しましょう。災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板の使い方を確認しましょう。繋がりやすい被災地外の親戚・知人の連絡先や、一般回線より優先される公衆電話の場所を確認しましょう。
- ハザードマップを確認しましょう。
 - ・指定避難所、指定緊急避難場所を確認しましょう。
 - ・災害時の危険か所を把握しましょう。
 - ※災害の種類によって、危険か所や避難場所が変わります。
- 住まいの耐震化を進めましょう。
 - ・1981年（昭和56年）5月以前に建てられた住宅は、耐震性が低いといわれているので、耐震診断を検討しましょう。
- 家の中を安全な空間にしましょう。
 - ・安全なスペースの確保や避難の妨げにならないよう、家具のレイアウトを工夫しましょう。
 - ・大型家具は、地震時に倒れやすく危険なので固定しましょう。
 - ・ガラスが割れないように、飛散防止フィルムを貼りましょう。
- 非常持出品や備蓄品を準備しましょう。
 - ・非常持出品は、リュックなどに入れ、玄関などの持ち出しやすい場所に置きましょう。
 - ・非常食や水は、最低3日分を備え、特に持病薬やアレルギー対応食を備えましょう。
 - ・「ローリングストック法」で備蓄しましょう。



ローリングストック法

非常食をまとめ買いすると、消費期限が過ぎたら、再びまとめ買いしなければなりません。
 3か月に1回など、日にちを決め、定期的に缶詰やレトルト食品など普段利用している食品を多めに購入しておき、消費した分だけあらためて補充し、常に一定量備蓄する方法がローリングストック法です。



共助

- 自主防災組織の活動を理解しましょう。
 - ・地域の住民が防災活動を実施するために、自発的に結成する組織です。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで自主防災組織に積極的に参加しましょう。
- 災害時要配慮者への支援を考えましょう。
 - ・災害時に被害が大きくなりやすいのは、高齢者、乳幼児や妊産婦、障がいのある人、病気やケガをしている人、外国人などです。このような、要配慮者を守るために地域で協力して支援しましょう。災害時にスムーズに支援するためには、日頃からコミュニケーションをとり、つながりをもつことが災害時の支えあいの大きな力となります。
- 防災訓練に参加しましょう。
 - ・安否確認訓練、炊き出し訓練、避難所体験訓練、災害図上訓練など、さまざまな訓練があります。防災訓練に参加することで、いざというときに素早く的確な対応をとれるようになるとともに、防災対策の現状、課題を把握することができます。



「あきる野市メール配信サービス」に登録しましょう！

市では、気象情報、地震情報等を「あきる野市メール配信サービス」で配信しています。
 災害から身を守るには正確な情報を迅速に入手することが大切です。ぜひ、「あきる野市メール配信サービス」に登録しましょう。
 登録は、t-akiruno@sg-m.jpを直接入力するか、次のコードを読み取って、メールを送信してください。
 ※システム変更に伴い、あきる野安心メールに登録していた方も再度登録が必要です。

